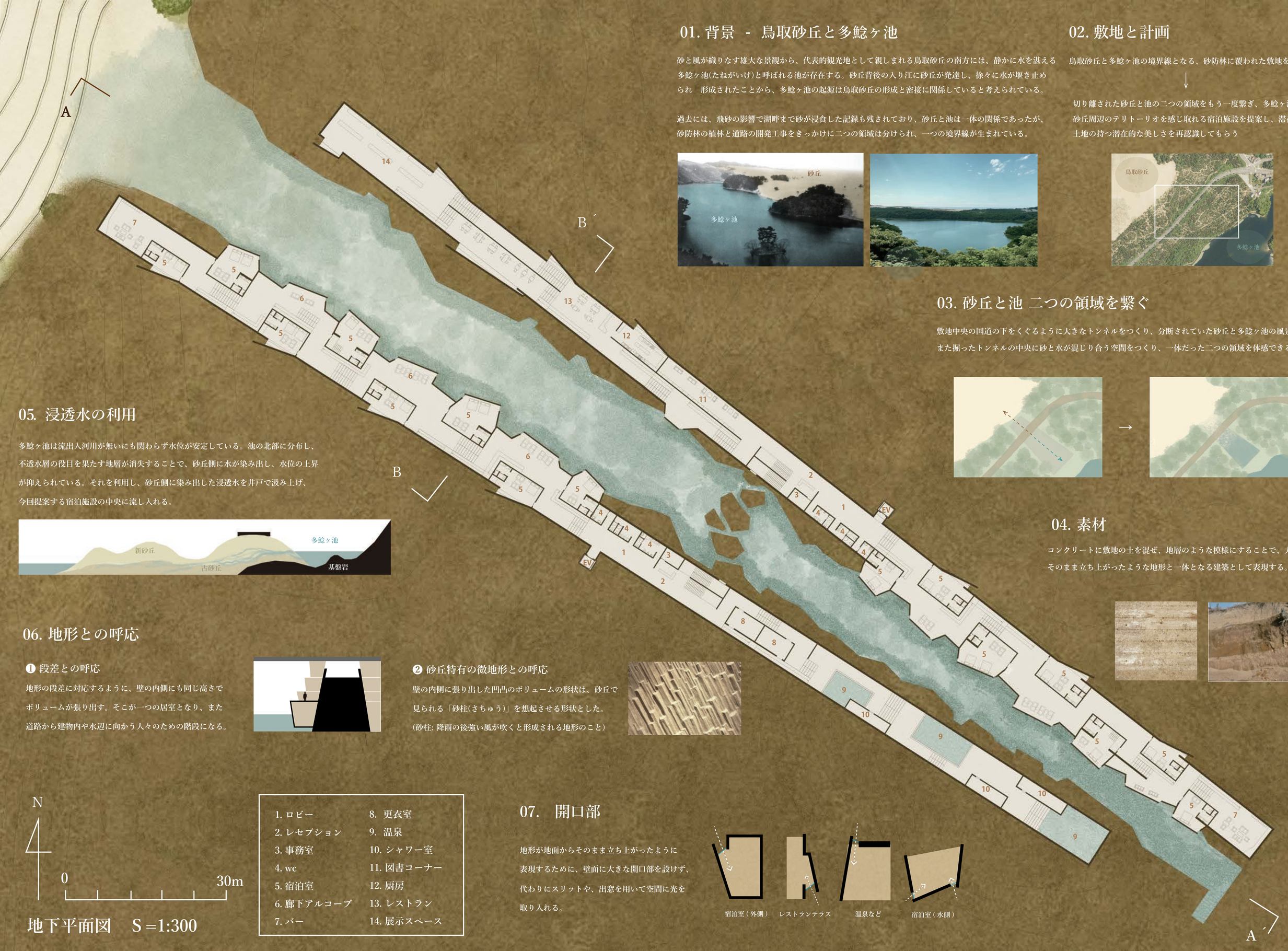
sand and water

鳥取砂丘周辺のテリトーリオを感じ取る宿泊施設の計画

宿泊室　大地に向かって張り出した出窓からは敷地を覆う砂防林が覗く

砂丘側展望　屋根の展望台からは、砂丘と海、そして空が眼前に広がる

レストラン　天井と壁のスリットからは光が漏れ出し、空間を包み込む



01. 背景 - 鳥取砂丘と多鯰ヶ池

砂と風が織りなす雄大な景観から、代表的観光地として親しまれる鳥取砂丘の南方には、静かに水を湛える多鯰ヶ池(たねがいけ)と呼ばれる池が存在する。砂丘背後の入り江に砂丘が発達し、徐々に水が堰き止められ　形成されたことから、多鯰ヶ池の起源は鳥取砂丘の形成と密接に関係していると考えられている。

過去には、飛砂の影響で湖畔まで砂が浸食した記録も残されており、砂丘と池は一体の関係であったが、砂防林の植林と道路の開発工事をきっかけに二つの領域は分けられ、一つの境界線が生まれている。

02. 敷地と計画

鳥取砂丘と多鯰ヶ池の境界線となる、砂防林に覆われた敷地を選定した。

↓

切り離された砂丘と池の二つの領域をもう一度繋ぎ、多鯰ヶ池を含めた砂丘周辺のテリトーリオを感じ取れる宿泊施設を提案し、滞在を通して土地の持つ潜在的な美しさを再認識してもらう

03. 砂丘と池 二つの領域を繋ぐ

敷地中央の国道の下をくぐるように大きなトンネルをつくり、分断されていた砂丘と多鯰ヶ池の風景を繋ぐ。また掘ったトンネルの中央に砂と水が混じり合う空間をつくり、一体だった二つの領域を体感できる場とする。

→

04. 素材

コンクリートに敷地の土を混ぜ、地層のような模様にすることで、大地からそのまま立ち上がったような地形と一体となる建築として表現する。

05. 浸透水の利用

多鯰ヶ池は流出入河川が無いにも関わらず水位が安定している。池の北部に分布し、不透水層の役目を果たす地層が消失することで、砂丘側に水が染み出し、水位の上昇が抑えられている。それを利用し、砂丘側に染み出した浸透水を井戸で汲み上げ、今回提案する宿泊施設の中央に流し入れる。

06. 地形との呼応

❶ 段差との呼応

地形の段差に対応するように、壁の内側にも同じ高さでボリュームが張り出す。そこが一つの居室となり、また道路から建物内や水辺に向かう人々のための階段になる。

❷ 砂丘特有の微地形との呼応

壁の内側に張り出した凹凸のボリュームの形状は、砂丘で見られる「砂柱(さちゅう)」を想起させる形状とした。

(砂柱: 降雨の後強い風が吹くと形成される地形のこと)

N

0　　30m

地下平面図　S =1:300

1. ロビー	8. 更衣室
2. レセプション	9. 温泉
3. 事務室	10. シャワー室
4. wc	11. 図書コーナー
5. 宿泊室	12. 厨房
6. 廊下アルコーブ	13. レストラン
7. バー	14. 展示スペース

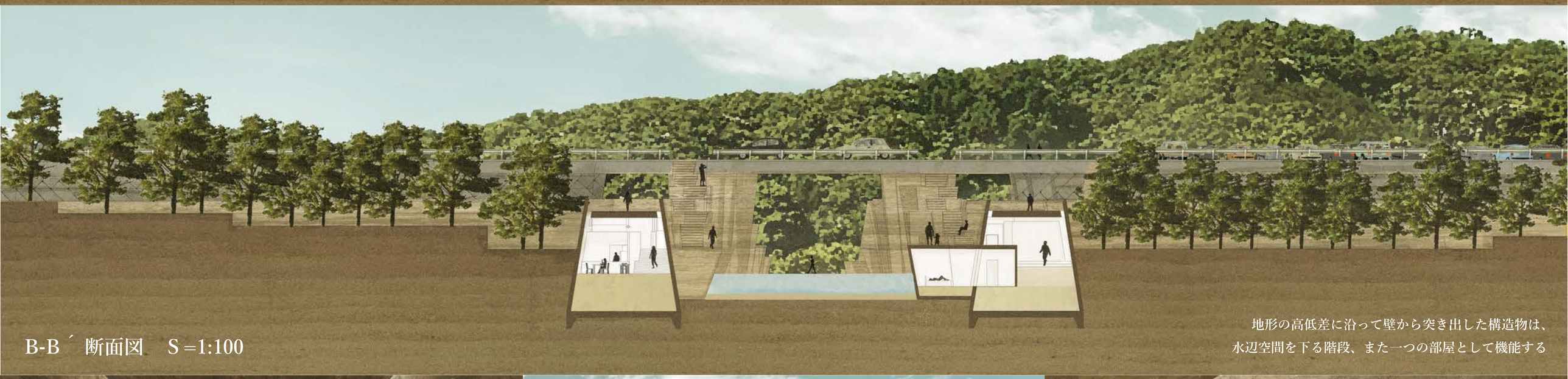
07. 開口部

地形が地面からそのまま立ち上がったように表現するために、壁面に大きな開口部を設けず、代わりにスリットや、出窓を用いて空間に光を取り入れる。

屋根伏せ図　S =1:300

A-A´ 断面図　S =1:400

中央の水辺空間は砂丘に向かうにつれて水深が浅くなり、
やがて砂丘に水が染み出し砂と水が混ざり合う



B-B´ 断面図　S =1:100

地形の高低差に沿って壁から突き出した構造物は、
水辺空間を下る階段、また一つの部屋として機能する

温泉

大地に掘られた洞窟のような空間の中で、身体を癒す

多鯰ヶ池側展望

砂防林の合間を縫った先に広がる多鯰ヶ池を望む

廊下アルコーブ

亀裂のようなスリットからも光が差し込む